

あとがき

国立学校財務センターの研究部は各方面の専門家各位のご協力を得て、1995年11月以来、1999年3月に至るまで高等教育の計画及び財政に関する研究会をほぼ毎月開催してきた。

ご多忙の中をご来駕戴いた講師の方々及び熱心にご聴講下さった皆さんのおかげで、研究会の開催回数も33回を数え、ご講演戴いた方も50名を越えるに至った。その間に“仕事の関係で講演は聴けなかったが、是非その内容を知りたい”。あるいは“せっかくの講演内容を少数者だけのものにしておくのは惜しい”など、講演内容の公開を望む声が各方面から寄せられるようになった。実際、ご講演はそれぞれユニークで優れたものであり、中には他では聴けないような貴重な内容のものも少なくなかった。

そこで、これまでの講演を内容別に整理した上で、講演録として逐次公刊し、大方のご希望に応えることにした。『大学の財政と設置形態』と題して前回刊行した第Ⅰ集は大学の設置形態と財政の関係及び高等教育財政の現状に関する講演を中心に収録しているが、今回の第Ⅱ集は『高等教育財政の国際比較』というテーマの下に、外国の高等教育財政及び教育費負担の現状分析に関する講演を中心に収録した。月例研究会の企画運営に携わった者として、第Ⅰ集に引き続き、第Ⅱ集の印刷刊行が実現をみたことを喜びとしたい。

公刊に当たっては講演のテープを活字にしたものを当センターで校正したものについて講演者のご校閲を戴き、誤りなきを期した。ご多忙の中、ご校閲の労をとられた講演者各位に改めてお礼申し上げた

い。なお、第4章についてはご校閲がかなわなかったため、当センターの校正にとどめた。

本講演録の刊行は当センター管理部をはじめ印刷業者の方々など関係各方面のご協力をえたことについて深く感謝の意を表したい。特に校正については前回に引き続き吉川裕美子氏にお願いした。同氏は日本学術振興会特別研究員として当センターにおいて高等教育財政の研究に精励されてきたが、7月1日付けで学位授与機構の助教授に栄転された。そのことをお祝いすると同時に、同氏の献身的なご助力に心より厚くお礼申し上げたい。

今日世界の多くの国々が高等教育財政に関して共通の課題を抱えており、それぞれ問題解決に苦慮している。そうした諸国の実態を知ることがそれが直ちに我が国の問題を解決することにはつながらないにしても、問題分析の手掛かりにはなろう。本講演録が少しでも高等教育財政に関心をもたれる読者各位のお役に立つことができれば幸いである。

1999年12月

国立学校財務センター研究部教授 市川昭午